

# 群馬の土地改良

No.262 令和6年2月1日



## 新年のご挨拶

群馬県土地改良事業団体連合会会長 熊川 栄

あけましておめでとうございます。

令和6年の年頭に当たり、会員並びに関係の皆様方に、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様には平素より当会の運営に格別のご高配を賜りますとともに、農業農村整備の推進に多大なるご尽力とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

まずは、新年早々に発生した令和6年能登半島地震により亡くなられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された全ての方々に心よりお見舞いを申し上げます。

皆様の安全と被災地の一日も早い復興そして被災された皆様の生活が1日も早く平穏に復することをお祈り申し上げます。

昨年の5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行し、様々な行事がコロナ禍前の状態に戻りつつあります。一方、ロシアによるウクライナ侵攻は一年を超え、肥料や燃料など生産コストの高騰の状況が続いております。

さらに、昨年は地球沸騰化という言葉が使われ始め、日本を含む世界各地で起きた夏の猛暑や豪雨などの頻発する自然災害に備えるためにも、農村地域の防災・減災対策の推進が重要な課題となっております。

このような中、安全で安心な食料を安定的に供給し、農業を魅力ある産業として活力ある農村を実現するためには、農業の多様な人材の確保・育成を進めるとともに、ほ場の大区画化、水田の汎用化・畑地化等の農地整備や適時・適切な農業用水利施設等の保全管理が必要となります。

このためにも、農業の生産基盤や農村の環境基盤を着実に整備する必要があり、計画的な農業農村整備事業の推進が不可欠と考えます。

一方、第5次男女共同参画基本計画に続き土地改良長期計画において令和7年度までに土地改良区及び土地改良区連合の女性理事の割合を10%以上とすることが成果目標とされており、多様な人材が活躍できる組織体制の実現に向け、当会も男女共同参画の推進を支援してまいります。

こうしたなか、国の農業農村整備事業関係予算は、令和6年度当初予算は、4,463億円で概算決定され、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策、TPP対策及び食料安全保障対策の令和5年度補正予算と合わせると6,240億円となり、令和5年度を上回る予算が確保できる見通しとなりました。農業農村整備関係予算につきましては、引き続き全国の土地改良団体と連携し、闘う土地改良を旗印に関係機関に強く要請してまいります。

群馬県においても、農業・農村を取り巻く新たな情勢の変化に対応し、強い農業の礎となる生産基盤整備と安全安心な農村づくり、地域資源の継承を積極的に進めるために策定された「群馬県農業農村整備計画2020」に基づいた各種施策が計画的に推進されているところであります。

当会といたしましても、これまで培ってきた技術と経験を最大限に活かして、「国の基」である農業の持続的発展と、食と活力ある農業・農村の実現に向け役職員一丸となって取り組んで参ります。

結びに、本年も一層のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げますとともに、皆様の益々のご発展とご健勝をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶といたします。





## 新年に当たって

全国土地改良事業団体連合会 会長 二階 俊博

令和6年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

本年元日に石川県能登地方を震源とする「令和6年能登半島地震」が発生し、北陸地域を中心に甚大な被害が発生しました。お亡くなりになられた方のご冥福を衷心よりお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

当会も被災地域の日も早い復旧・復興に向けて全力で取り組んでまいりますので、関係各位におかれましてはご支援をお願いします。

去年は、国内では新型コロナウイルス禍が一段落する一方、ロシアによるウクライナ侵略に加え、中東においても軍事衝突が起こるなど、国際的な混乱が続く年となりました。

国内においては、農業者の高齢化や減少が進み、農地や農業用水の管理に支障が生じているほか、資材価格と電力料金の高騰が土地改良区の運営を圧迫しています。

このような情勢の中、命を支える食料の確保は、後回しにできない国民ニーズであり、食料安全保障の強化は、国家の最重要課題とされ、食料・農業・農村基本法の見直しにおける大きなテーマとして議論されています。

我々は、食料安全保障の確立の観点からも、食料生産を支える農業生産基盤を維持し、国民の不安を解消していかなければなりません。

令和6年度農業農村整備事業関係予算につきましては、全国の関係者の皆様の熱意ある要請活動の結果、政府予算案において、4,463億円を確保することができました。令和5年度補正予算を含めると昨年度を上回る6,240億円となります。

御尽力いただいた関係各位に心から御礼を申し上げます。

他方、第5次男女共同参画基本計画や土地改良長期計画においても令和7年度までに土地改良区及び土地改良区連合の女性理事の割合を10%以上とすることが成果目標とされており、残された期間は2年余りとなります。

将来の土地改良組織の体制強化・発展のために女性の参画を積極的に進めていかなければなりません。皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

私は、本会の会長に就任以来、「闘う土地改良」を旗印に組織一体となって闘ってまいりました。土地改良の代表として進藤金日子参議院議員、宮崎雅夫参議院議員が「車の両輪」となって、皆さんの声を聞き、現場が直面している課題解決の処方箋を国の政策に反映させるよう奮闘しておられます。皆さんの声を国会に届けるためにも、お二人の活動の支援をお願いいたします。「農業農村の振興」を果たすためには、限りなく闘い続けていかなければなりません。

男女ともに一致団結して、更なる闘いを続けていこうではありませんか。

本年も皆様の地域において更に農業・農村が活力を得て、一層発展しますよう御期待申し上げますとともに、様々な不安が払拭され、全国の皆様が日々健やかに過ごされますよう御祈念申し上げまして、私の新年の御挨拶といたします。





## 新年のご挨拶

群馬県知事 山本 一太

明けまして、おめでとうございます。

群馬県土地改良事業団体連合会の会員の皆さまには、心新たに輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、日頃から本県の農業農村の振興・発展はもとより、県政全般にわたりご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

知事としての2期目がスタートして5ヶ月が経ちました。新年を迎え、改めて県政を担うことの重責に身の引き締まる思いであり、皆さまの負託に全身全霊で応えていきたいと決意を新たにしています。

昨年は、原油価格や食料品などの物価高騰への対応など、県民生活や事業者を支えるための対策に全力を注ぐとともに、約3年に及んだ新型コロナとの闘いを乗り越え、新しい群馬を創るための取り組みを進めた1年でした。特に、群馬県で初めて誘致に成功した「G7(セブン)群馬高崎デジタル・技術大臣会合」の開催は、群馬県が重要な国際会議の開催地となりうることを、そして、魅力あふれる地域であることを国内外に示すことができたと考えています。

また、新たな地域交通システムである「GunMaaS(グンマース)」のサービスを開始することができました。将来的には県内全域でサービスを展開し、県民の利便性を向上させるものです。高齢者や免許を持たない学生など、自家用車がなくても、いつでも外出できるような持続的な公共交通への転換を進めていきます。

さらに、海外の先進的な取り組みを採り入れ、群馬県がさらに発展する道を開くため、独自の地域外交を精力的に展開しました。昨年は、国を挙げたコンテンツ振興で成果を上げている韓国、経済発展が著しく有望な投資先として注目されるベトナム、非認知能力を育てるSEL教育の先進地であるスコットランド、世界最先端のデジタルクリエイティブ企業が集まるアメリカを訪問いたしました。外国政府や企業とのハイレベルな人脈を構築するとともに、知事自らによるトップセールスにより数多くの知見を得ることができました。これらを群馬県の活性化につなげていきます。

この他、いわゆるワイズスペンディングの考え方にに基づき、行財政改革にも注力しました。これにより、大きな予算を必要とする、高校生世代の医療費無料化、老朽化した小児医療センターの再整備、利根川新橋の整備など、将来を見据えたさまざまな事業を決断することができました。

本年も、新・群馬県総合計画ビジョンに掲げた「すべての県民が、誰一人取り残されることなく、自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できる自立分散型の社会」の実現に向けて、あらゆる分野で群馬の強みを活かした独自の「群馬モデル」を発案、実行、発信していきます。厳しい時代にあっても誰もが健康で豊かに暮らせるよう、これまでになかった新しい発想で、群馬県から日本を変えていくという「攻めの姿勢」で県政を前進させていく覚悟です。

新しい年が、会員の皆さまにとって実り多き素晴らしい1年になりますよう、心からお祈り申し上げます。





## 新年のご挨拶

群馬県農政部長 砂盃 徹

新年明けましておめでとうございます。

群馬県土地改良事業団体連合会の会員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

また、平素より群馬県農政の推進にあたりまして、多大なる御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は、4月の凍霜や7月の降雹による農作物への被害、8月・9月の集中豪雨による農地・農業用施設への被害など、自然災害に見舞われた年となりました。最近はこのような災害が繰り返されるようになってきています。また、近年の農業経営を取り巻く状況は、これら自然災害に加えて、国際情勢の変化や円安に伴う肥料、飼料、燃油の価格高騰等、多くの課題に直面しています。

群馬県では、現状の課題に対応すべく、農業生産基盤の強化、自然災害などリスクへの対応強化、国際情勢の影響を受けにくい「環境負荷低減・資源循環型農業」への構造転換等に向け、各種施策を展開しているところです。これらの施策により「群馬県農業農村振興計画」の基本目標である「未来へ紡ぐ！豊かで成長し続ける農業・農村の確立」を目指し、農政部一丸となって取り組んで参ります。

また、農業農村整備につきましても、「豊かで成長し続ける安全安心な農業・農村づくり」に向けて、収益性向上を図る生産基盤整備、持続的な農業用水の安定供給、農村の防災減災対策などに計画的に取り組んでいるところです。

特に、安全安心な農村づくりに向け、防災重点農業用ため池につきましては、2025年度までに、すべての防災重点ため池でハザードマップ作成及び豪雨・地震対策に対する安全性能調査を完了させるべく推し進めており、地域住民へのハザードマップ周知等のソフト対策や、豪雨・地震の対策工事等のハード対策を一体的に進め、防災・減災対策を推進して参ります。

群馬県の農業農村が持続的に発展していくためには、会員の皆様と行政等が連携・協働し、一体となって取り組むことが不可欠でありますので、今後とも、力強い御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、会員の皆様のご健勝とご活躍を心から祈念いたしまして、新年の御挨拶いたします。





## 新年のご挨拶

群馬県県土整備部長 眞庭 宣幸

謹んで新年のお祝いを申し上げます。

群馬県土地改良事業団体連合会会員の皆様には、県土整備行政の推進、とりわけ農業集落排水事業をはじめとする汚水処理事業の推進に多大なる御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、群馬県では、県土整備分野の最上位計画である「ぐんま・県土整備プラン2020」を令和2年12月に策定し、「災害レジリエンスNo.1の実現」をはじめとした政策や施策に取り組んでいます。特に、農業集落排水に関連する政策として「美しく良好な環境の保全」では、水源県ぐんまの水環境を守り、次世代に引き継ぐため、「健全な水循環の維持・回復」の施策推進におきまして、皆様に多大なる御尽力をいただいております。

また、令和5年3月には、本県の水環境を保全し、「下水道」や「農業集落排水」等の集合処理と「合併処理浄化槽」等の汚水処理施設を地域に合わせた配置計画の基本となる「群馬県汚水処理計画」を改定いたしました。

本計画では、人口減少等による社会情勢の変化に対応した効率的な施設整備を推進するため、「下水道等と合併処理浄化槽のベストミックスの更なる推進」、「広域化・共同化による市町村維持管理費の負担軽減」及び「浄化槽処理促進区域の指定推進」を策定方針として掲げ、更なる汚水処理人口普及率の向上を目指していきます。

このほか、農業集落排水施設の多くは、供用開始から長期間が経過しており、適切な時期に「施設の長寿命化」や「改築更新」が必要な状況にあります。また、近年の急速な人口減少に伴う使用料収入の減少等もあり、市町村の経営環境は厳しさを増しております。このため、下水道への施設統合等を進め、より一層効果的な事業経営に向け、関係者の皆様と一緒に必要な支援を検討して参ります。

今後も、地域の特性を踏まえた汚水処理人口普及率の向上を目指して、生活環境の確保や下流域へ良質な水資源の供給を推進していきます。

群馬県土地改良事業団体連合会並びに会員の皆様とは、効率的かつ効果的に連携しながら汚水処理事業に取り組んで参りますので、引き続き御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、会員皆様の御健勝と益々の御活躍を祈念いたしまして、新年の挨拶といたします。今年もよろしくお願いたします。





## 新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議 顧問

財務大臣政務官 参議院議員 進藤 金日子

新年、明けましておめでとうございます。

本年は元日から能登半島地震が発生いたしました。お亡くなりになられた方のご冥福を心からお祈りいたしますとともにご遺族の皆様にお悔やみを申し上げます。また、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。被災地域の復旧、復興に向け、私も全力を尽くしてまいります。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

群馬県土地改良事業団体連合会の会員の皆様には、旧年中大変お世話になりました。昨年末、財務大臣政務官を拝命いたしました。本年も現場主義、地域主義に徹し、国家の発展と農業農村の振興のため全力を尽くしてまいります。本年もよろしくお願いいたします。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、国民の生活も平穏を取り戻しつつあります。一方、ロシアのウクライナへの侵略は昨年も収束せず、10月にはイスラエルとパレスチナの紛争も勃発しました。こうした状況下において、エネルギー価格、小麦・とうもろこし等の穀物価格、飼料価格や肥料価格、資材価格等も概して高止まりの傾向にあり、物価上昇が国民生活を圧迫しています。

土地改良予算については、昨年11月に成立した令和5年度補正予算で1,777億円（TPP等対策：760億円、食料安全保障対策：460億円（うち重複300億円）、国土強靱化5か年加速化対策：857億円）が措置され、令和6年度当初予算政府原案の4,463億円と合わせて6,240億円となり、令和5年度予算よりも106億円上回る予算を確保しました。この予算額で各地域において必要な事業を計画どおりに実施可能かどうか、現場の実情をしっかりと精査していく必要があると考えています。

さて、今年の農政における大きな課題は、食料・農業・農村基本法の改正です。政府が昨年6月に決定した「食料・農業・農村政策の新たな展開方向」の具体的な施策の内容について、自民党では昨年9月から「農業基本政策」、「農地政策」、「食料産業政策」の3つの検討分科会を設置し、私も参画して少数のメンバーで議論を重ねました。昨年末には、検討結果を取りまとめ岸田総理へ提言を行うとともに、「食料安全保障強化政策大綱」の改定に当たって提言内容が反映されました。この大綱が本年の通常国会に提出される食料・農業・農村基本法改正案や関連法案、予算制度につながってまいります。

提言は、「食料安全保障の抜本的な強化」、「環境と調和のとれた産業への転換」、「人口減少下における生産水準の維持・発展、地域コミュニティの維持」の観点から構成されており、生産基盤の維持につながる農地の確保、農業生産基盤整備と保全の推進、人材の育成と確保等、今後進めるべき主要施策を具体的に提言しています。

私は、従来から我が国の食料供給力（食料自給力）の強化に当たっては、①農地・農業用水等の農業資源の機能の維持・向上を図る土地改良対策、②農業者を確保・育成する担い手対策、③農業技術の向上を図る試験・研究、普及・生産対策を別々でなくパッケージで早急に実施することが必要と訴えています。

「食料自給力」の最も基礎的なものが「農地・水等の農業資源」であり、農業者の激減が見込まれる中で農地と水の持っている機能を維持・増進する土地改良はこれまでも増して重要となります。私は、本年も土地改良予算の安定的な確保に努め、法律の整備や制度の拡充等土地改良事業の環境整備を行い、農業農村の振興に向けて更に邁進してまいります。皆様からのご指導とご鞭撻をお願い申し上げ、また、貴連合会のご発展とご繁栄を祈念し、新年のご挨拶といたします。





## 新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議 顧問

参議院議員 宮崎 雅夫

本年元日に発生した「令和6年能登半島地震」により尊い命を失われた方々に哀悼の誠を捧げさせていただきます。さらに、被害に遭われ、不自由な避難生活を余儀なくされている皆様には衷心よりお見舞いを申し上げますとともに、速やかな生活基盤の回復と、今後進められる農地・農業用施設を含む被害状況の把握や早期復旧・復興に向け、私も関係機関等と連携しながらしっかりと対応してまいります。

また、本件地震のほかにも、昨今の激甚化、頻発化する自然災害は、昨年も全国各地で風水害や土砂災害等を発生させ、さらに、夏場の高温や渇水など農業用水の安定供給にも影響を及ぼしています。被災された全ての方々に心よりお見舞い申し上げ、早期復興に皆様とともに力を合わせて対応してまいります。

さて、辰年を迎え、群馬県土地改良事業団体連合会ならびに会員各位、関係の皆様方におかれましては、日頃より地域の重要な資源である水と土を守り、地域農業の発展や農山村の活性化に向け、土地改良事業の円滑な推進や施設の適切な管理にご尽力いただいておりますことに心から敬意を表しますとともに、私、宮崎雅夫の国政活動に多大なるご支援とご指導を賜り衷心より感謝申し上げます。

私も皆様方から多くのご支援をいただきつつ、現場でお聞きした皆様のお声やご要望等に対し、それぞれの事情に即した解決に向け、国政の場から全力で対応してまいりました。昨年11月に成立した令和5年度補正予算では、土地改良関係として、昨年度の補正予算から100億円増の1,777億円（食料安全保障強化対策160億円、総合的なTPP等関連対策760億円、防災・減災・国土強靱化対策857億円）を確保できました。この中には、皆様方から強いご要望があった土地改良施設にかかる電力料高騰分の7割を支援する制度を4月まで延長する対策も含まれています。加えて、12月に閣議決定した令和6年度当初予算案では、前年を上回る4,463億円が計上され、補正予算と合わせた総額は6,240億円となっております。1月末から始まる通常国会において、参院予算委の理事として、早期成立に向け努力してまいります。

さらに、通常国会では、「農政の憲法」とも言われる「食料・農業・農村基本法」の四半世紀ぶりの改正が予定されていることから、我が国の食料安全保障のあり方や環境に配慮した農業・食品産業の推進、人口減少社会での食料供給基盤の強化等についてしっかり議論を深め、基本法に位置付けていく必要があります。加えて、土地改良が担う重要な役割としての農地や水利施設等の整備や保全管理、農業従事者数の減少傾向に対応するスマート農業の取組推進、農業農村関係人口の拡大などを通じた土地改良区の運営基盤の強化を図っていくことが重要です。

私も、引き続き「食・土地改良・農山漁村は未来への礎」を基本理念に、現場や地域の課題をしっかりと伺いし、皆様のお声を国政に届け、必要な予算の確保や制度の充実に向け、鋭意努力してまいります決意ですので、引き続きのご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、群馬県土地改良事業団体連合会ならびに会員各位、関係の皆様様の益々のご発展とご健勝を心より祈念申し上げ新年の挨拶とさせていただきます。本年もよろしくようお願い申し上げます。



## 疎水フォーラムin常西用水2023

令和5年10月30日(月)～31日(火)に富山県富山市において、「疎水フォーラムin常西用水2023」が開催されました。

農業用水のみならず地域の生活用水や防火用水等として利用され、地域の歴史や文化を育んできており、様々な多面的機能を発揮し、農業者のみならず国民共有の貴重な財産であり、地域が将来にわたって引き継いでいくことができるよう、疎水の役割や機能を広く国民に発信し情報交換等を行う機会として、全国から約740名の関係者や一般の方が参加しました。

1日目に富山国際会議場で開催されたフォーラムでは、基調講演、講演、活動報告、パネルディスカッションが行われました。

講演では、当県の水土里ネット天狗岩の磯田事務局長が「都市化が進む地域における農業用水の維持管理について」と題して講演され、急激な都市化や事業による冬期断水時の生活雑排水の流入により水質の悪化などの対策で苦労していることなどユーモアを交えて講演されました。



2日目の現地研修には、県内外から約130名が参加し、全国初の農業用水の合口事業の常西合口幹線水路、横江頭首工、左岸連絡水路橋、新庄排砂水門を研修しました。



## 2023ため池フォーラムinとっとり

令和5年11月9日(木)～10日(金)の2日間、各都道府県や土地改良区の職員等を対象に、ため池の保全活動や地域活性化への取組み事例を情報共有し、危機管理意識の向上を目的とした「2023ため池フォーラムinとっとり」が開催されました。

1日目は、鳥取県鳥取市の「県立県民文化会館」においてフォーラムが開催されました。鳥取県 平井知事による開会の挨拶にて幕を開け、農林水産省農村振興局整備部防災課 渡部室長、全国水土里ネット 由谷主任研究員、鳥取県議会 浜崎議長、全国ため池等整備事業推進協議会 宮崎副会長が祝辞を述べられました。

鳥取大学農学部 清水教授による「ため池に関する調査研究」の基調講演をはじめ、農林水産省より「ため池の防災・減災対策の取組状況」の情勢報告、鳥取県や水土里ネット鳥取、土地改良区理事長の方々より事例発表があり、次期開催県である秋田県 大山次長が挨拶を行い、水土里ネット鳥取 榎本会長の挨拶により閉会となりました。

2日目の現地見学会は八頭コース（西谷ため池（上堤））と倉吉コース（大山池（狼谷ため池））に分かれて実施され、各施設の歴史を踏まえながら施設状況や管理方法等、ため池の維持管理の重要性や苦慮する内容等について説明を受けました。





# 令和5年度 土地改良区等役職員研修会

令和5年11月9日(木)～10日(金)の2日間、4年ぶりに宿泊を伴い渋川市伊香保町「ホテル木暮」において、農業農村整備の円滑な推進と土地改良区の運営管理を行う役職員の技術向上を図ることを目的とした「令和5年度 土地改良区等役職員研修会」を開催しました。

熊川会長による開会の挨拶に続き、来賓として出席された群馬県農政部 篠原農村整備課長から挨拶をいただきました。当日、多忙により出席出来ませんでした全国水土里ネット会長会議顧問 参議院議員 進藤様よりオンラインによる講義も行われました。

研修は下記のとおり行われ、147名の参加者は熱心に受講されました。

## 1日目

研修科目	講師
土地改良区をめぐる情勢について	関東農政局農村振興部 土地改良管理課 課長補佐 細貝 輝 様
維持管理計画書について	全国土地改良事業団体連合会 支援部長 市村 和寿 様
滞納処分の実例について	待矢場両堰土地改良区 会計課 係長代理 吉田 智一 様
農業農村整備をめぐる情勢について (オンライン講義)	全国水土里ネット会長会議顧問 参議院議員 進藤 金日子 様

## 2日目

研修科目	講師
土地改良区の水利権について	群馬県農政部農村整備課 補佐 大淵 時男 様
土地改良区検査について	群馬県農政部農村整備課 補佐 宮一 広行 様
「ため池サポートセンターぐんま」活動報告	群馬県土地改良事業団体連合会 技術課長 井上 規宏



熊川会長 開会挨拶



篠原農村整備課長 来賓挨拶



進藤参議院議員



研修会の様子



## 農業農村整備の集い及び要請活動

令和5年11月7日(火)、東京都千代田区「シェーンバッハ・サポー」において、「農業農村整備の集い」―農を守り、地方を創る予算の確保に向けて―が、全国水土里ネット、都道府県水土里ネットの共催により開催されました。

集いは、全国の農業農村整備関係者が一堂に会し、農業農村整備の一層の推進を図っていくことを目的に開催され、全国の土地改良区並びに市町村、都道府県水土里ネットから約1,200名の参加があり、当県から16名が参加しました。

全国水土里ネット 二階会長から主催者挨拶をいただき、全国水土里ネット会長会議 進藤顧問、宮下農林水産大臣、高市経済安全保障担当大臣、森山自民党総務会長、細田自民党農林部会長から祝辞をいただきました。

また、「情勢報告」を全国水土里ネット会長会議 宮崎顧問、「新たな取組の報告」を全国水土里ネット女性の会 根本会長が行い、「要請文提案」は水土里ネット千葉 小島参事により要請書が読み上げられ、満場一致で採択されました。

閉会にあたり、全国水土里ネット女性の会 根本会長、西副会長、全国水土里ネット若手職員による「ガンバロウ三唱」が行われました。

また、当県参加者は、集い開催に併せ、当県選出国會議員に要請活動を行いました。

### 要 請 書 (抜粋)

全国の水土里ネットは、培ってきた経験と技術を活用し、「闘う土地改良」のスローガンの下、一致団結して、次の事項の実現を図ることを国に要請する。

#### 記

- 一 土地改良事業の計画的な推進のため、必要な予算を安定的に確保すること。
- 二 食料・農業・農村基本法の見直しに当たっては、次の観点に留意して必要な規定を盛り込むとともに、関連する制度や事業・支援の一層の充実を図ること。
  - (一) 農業の競争力強化や、国産農産物の増産による輸入農産物からの置換え等を図っていくため、「農地の区画の拡大」や排水改良による「水田の汎用化」が引き続き重要であること。
  - (二) 農業用水を安定的に確保するため、「農業用排水施設の機能の維持増進」が引き続き重要であり、さらに、頻発する突発事故等を踏まえ、「農業生産の基盤の整備」に加えて、農業生産の基盤の保安全管理が重要となっていること。
  - (三) 豪雨災害や大規模地震のリスクを踏まえ、農業・農村の防災・減災対策の強化が重要となっていること。
  - (四) 中山間地域等直接支払のみならず、基本法制定後に法定化された多面的機能支払が、農地・農業用水の維持等を図る上で重要な役割を果たしていること。
  - (五) 農業の生産基盤の整備及び保安全管理に関する技術の開発及び普及が重要であること。
  - (六) 土地改良区は、食料生産に不可欠な農地・農業用水の整備及び維持管理という公共的役割を果たしており、食料安全保障の強化に向けて、運営体制の強化を図る必要があること。
- 三 大規模災害からの復旧・復興や再度災害防止の取組を早急に進めること。また、災害対応のデジタル化など、事務手続の効率化等に向けた取組を推進すること。
- 四 農業の競争力強化のため、農地の集積・集約化、米から高収益作物への転換、スマート農業の導入を促す農地整備を引き続き推進すること。
- 五 農村地域の国土強靱化のため、老朽化した農業水利施設の更新・長寿命化や、豪雨・地震対策等を引き続き推進するとともに、燃料価格や電力料金が高騰する状況下においても安定的な用水供給等が可能となるよう対策を推進すること。
- 六 ICT、AI等の先進技術を活用して、土地改良施設の管理の省力化・高度化等を図る取組を推進すること。
- 七 中小規模の土地改良区を対象とした合併など、土地改良区の運営基盤強化に対する支援を推進すること。



- 八 流域治水の取組推進に当たっては、関係する農業水利施設の管理者や田んぼダムに取り組む農業者に過度な負担や責任が生じないように配慮すること。
- 九 水田活用の直接支払交付金の見直しに伴う水田の畑地化を進めるに当たっては、現場の実情を踏まえ、引き続き必要な措置を講ずること。
- 十 上記事項の推進に当たり、水土里ネットが有する技術、経験などを充分発揮できるよう配慮すること。

## 農業農村整備の集い



○主催者挨拶  
全国水土里ネット 二階会長



○来賓祝辞  
全国水土里ネット会長会議 進藤顧問



○要請文提案・採択  
水土里ネット千葉 小島参事



○情勢報告  
全国水土里ネット会長会議 宮崎顧問



○新たな取組の報告  
全国水土里ネット女性の会 根本会長



○ガンバロウ三唱

## 要請活動



中曽根 康隆 衆議院議員



小淵 優子 衆議院議員



笹川 博義 衆議院議員



福重 隆浩 衆議院議員



## 令和5年度 第2回理事会

令和5年11月29日(水)、当会において「令和5年度 第2回理事会」を開催しました。

熊川会長に挨拶をいただき議事に入りました。

理事会は、理事7名、監事3名の出席のもと行われ、議案はすべて原案のとおり承認・議決されました。

### ◆議 事◆

議案第1号 令和5年度(第2回)収入支出補正予算について

議案第2号 処務規程の廃止について

議案第3号 事務組織規程の制定について

議案第4号 文書取扱規程の制定について

議案第5号 群馬県土地改良事業団体連合会

副支部長の委嘱について

協議事項 (1) 女性理事登用に向けた定款・規約の改正について

(2) 定年延長について

報告事項 (1) 第1回理事会の議案第6号の規程改正に合わせた名称変更について

(2) 積立資産の運用について



## 令和5年度 第2回監事会及び監査

令和5年12月22日(金)、当会において「令和5年度 第2回監事会及び監査」を開催しました。

監事会では、第1号から第3号の議事を審議し、監査では、令和5年度の業務、会計経理を確認し、村上代表監事から「調査・確認し、協議をした結果、諸帳簿など特に問題はなく概ね良好と認め、業務執行にあたっては、今後とも細心の注意を払うとともに会員からの信頼のおける連合会であってほしい」との監査結果報告がありました。

### ◆議 事◆

第1号 監査の実施計画について

第2号 監査結果の処理方法について

第3号 その他監事が必要と認めた事項について

### ◆監査事項◆

(1) 令和5年度業務に関する事項について

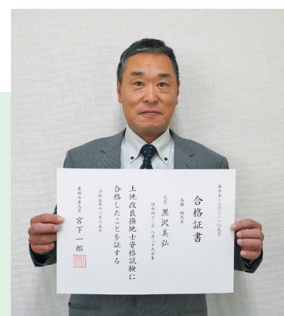
(2) 令和5年度会計経理に関する事項について

(3) その他



## 資格取得

当会では会員の皆様の期待に応えられる事業実施のため各種資格取得、技術力の向上に努めています。このたび調査・換地課 係長 黒沢 美弘氏が土地改良換地士に合格しました。





## 令和5年度 農業集落排水に関する絵画コンクール審査会及び表彰式

令和5年10月6日(金)、当会において農業集落排水に関する絵画コンクールの審査会が行われました。群馬県農業集落排水事業連絡協議会主催により、広報活動の一環として、農村地域の環境保全と農業集落排水事業の啓発・普及を目的に農村地域における「水と緑を取り巻く環境」を題材に絵画コンクールを実施しました。応募作品については、農業集落排水事業を実施している21市町村に募集を行い147作品の応募がありました。応募作品の中から最優秀賞（群馬県知事賞）、上毛新聞社賞、群馬テレビ賞、エフエム群馬賞、連合会長賞、協議会長賞の上位6作品及び、優秀賞7作品、佳作11作品を決定しました。

表彰式は令和5年11月11日(土)、太田市「イオンモール太田」において開催された「ぐんまフェア」内で最優秀賞（群馬県知事賞）などの上位6作品の表彰が行われました。



絵画コンクール審査会



最優秀賞



「豊かな水で育つ稲」

吉岡町立明治小学校 5年 八木橋 滯さん



絵画コンクール表彰式

## 第73回 農業農村工学会 関東支部大会

令和4年度に開催された農業農村工学会関東支部主催の「第73回農業農村工学会 関東支部大会」において、当会管理課の霜田補佐が発表した論文「農業集落排水施設におけるICT（遠方監視装置）の活用について」が優秀賞を受賞し、令和5年11月21日(火)にオンラインで表彰式が開催されました。

当会では遠方監視装置を活用し、農業集落排水施設の運転状況や各種情報履歴を把握することで、施設や機器の異常を早期発見し、水質の維持・改善提案及び運転管理指導に活用しています。





## 未来へつなごう！ふるさとの水土里 子ども絵画展2023

令和5年10月5日(木)～6日(金)、東京都千代田区「砂防会館別館会議室」において「未来へつなごう！ふるさとの水土里 子ども絵画展 2023」の審査が行われ、全3,021作品の応募の中から、入賞31作品、地域団体賞52作品、入選142作品、佳作175作品が選考され、作品は令和5年12月5日(火)～11日(月)まで東京都美術館において展示会が開催されました。

「子ども絵画展」は全国水土里ネット及び都道府県水土里ネット主催により、子どもたちに田んぼや畑、水、農業・農村や自らの環境などに関心を持ってもらい、この財産を次世代へと引き継いでいくことを目的に開催されている小学生以下を対象とした絵画コンクールで、今回で24回目となります。

水路、田んぼや棚田、畑、ため池、そこに棲む生き物たち、農業に関する古くから伝わる風習、郷土料理、様々な農作業風景や地域のお祭りなどを題材に子どもたちの目で感じたままの絵画を応募しております。当県では下記作品が入賞・地域団体賞に選ばれました。



### 文部科学大臣賞

#### 「ひいおばあちゃんからひ孫へ」

高崎市小学校6年  
松原 杏さん



### 高崎西部土地改良区 理事長賞

#### 「えだまめとれたよ」

高崎市小学校2年  
佐藤 会理名さん



### 水土里ネット長野壱 理事長賞

#### 「ばあちゃんと一緒に米作り」

高崎市小学校3年  
中澤 結翔さん



### 水土里ネットまちやば 理事長賞

#### 「通学路で毎日見る用水路ハンドル」

館林市小学校5年 木村 咲貴さん



全国水土里ネットホームページ

<https://www.inakajin.or.jp/works/pr/kids-art>





## 鹿田山フットパス整備作業

令和5年11月1日(水)、NPO法人鹿田山環境保全ネットワークの主催により鹿田山フットパス整備作業が行われ、NPO法人に参加する多くの団体、群馬県立渡良瀬特別支援学校の生徒などが参加しました。

鹿田山の散策道路脇に置いてあるウッドチップの山から、バケツや布袋にウッドチップを入れ、散策道路に敷き詰める作業を行いました。



整備作業は雑草の育成を抑え

る事ができ、作業後は、とてもふかふかして、足、腰に優しい散策道路が仕上がります。新型コロナウイルス感染症の蔓延で中止となっていた地元女性部の手作りカレーが復活し、お昼に配られました。

また、作業後はサツマイモの収穫をし、お土産として頂きました。



## 令和5年度 群馬県農政部農村整備課 「学生向け現場見学会」



令和5年12月18日(月)、ぐんま農業農村整備広報委員会広報検討部会の活動として、群馬県農政部農村整備課「学生向け現場見学会」が開催されました。

コロナウイルス、インフルエンザウイルスの感染対策を行いながら、藤岡北高等学校の視聴覚室において、藤岡北高等学校(環境土木科)、吾妻中央高等学校(環境工学科)の生徒が参加し、群馬県の農業、農業農村整備事業をはじめに、群馬県農政部農村整備課及び当会の仕事内容について講義を行いました。その後、県営事業大谷牛秣地区の大谷池へ移動し、ため池の施設及びの工事实施中の様子を見学しました。





